



海外のがん医療に関する病院見学報告：海外視察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福島県立医科大学看護学部 公開日: 2017-04-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山手, 美和 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000591

海外視察

海外のがん医療に関する病院見学報告

福島県立医科大学看護学部 山手 美和

I. はじめに

筆者は、以前、2012年5月3日～6日第37回米国がん看護学会に参加し、アメリカ・ニューオーリンズにある病院見学を行った内容を報告した¹⁾。

米国がん看護学会や国際がん看護学会では、病院見学ツアーを開催されることがある。本稿では、第38回米国がん看護学会（ワシントン, DC）の際にも同様に行われたアメリカ国外からの参加者のための米国がん看護学会主催の病院見学ツアーと第18回国際がん看護学会（パナマ共和国, パナマ市）での病院見学ツアーについて報告する。

II. MedStar Georgetown University Hospital (Washington, DC)

MedStar Georgetown University Hospital の病院見学ツアーは、第38回米国がん看護学会（2013年4月25日～28日）の開催期間中に行われた。

MedStar Georgetown University Hospital は、イエズス会が創立した急性期の教育と研究を行う病院（写真1）で、総ベッド数は609床であり、神経科学、移植、がん、胃腸病学を専門としている²⁾。

見学ツアーでは、病院の概要とがん医療の部署を中心に回った。Outpatient Infusion Center（写真2）は、外来

で化学療法を受ける患者さんのための部署であり、写真3、写真4のように個室に近い状態であり、隣の患者とも十分な距離が保たれている構造になっており、化学療法を受ける患者のプライバシーや安楽が確保できるようになっていた。日本でも、ベッドごとにテレビを設置している病院もあるが、MedStar Georgetown University Hospital でも同様に患者ごとにテレビが設置されており化学療法中の時間を患者の思いのままに過ごせるような配慮がなされていた。

写真5は、看護師の休憩室である。休憩室には、看護師が自由に飲むことができる飲み物のベンダーやマッサージ器がおいてあった。筆者の知る範囲内では、このような看護師の休憩室は見たことも聞いたこともない。

がん患者と家族をケアしていく看護師は、看護ケアを行う上での知識や技術の習得・スキルアップ、勤務体制、患者の病状の変化や症状緩和が困難な患者への対応、患者の死、患者・家族が抱える苦悩へのケア、患者・家族との関係性、医療従事者間の関係性などの多くのストレスを抱えながら勤務しているといわれている^{3, 4, 5)}。MedStar Georgetown University Hospital の看護師の休憩室を見学させていただき、がん患者が治療を受ける環境を



写真1



写真2

整えていくことの重要性は言うまでもないが、看護師の職場環境を充実させていくこととがん患者と家族への看護ケアの充実を図ることは切り離して考えることはできないのではないかと考えた。飲み物とマッサージ器が設置されている看護師の休憩室が完備されただけでは、がん医療に携わる看護師のストレスが軽減されるとは思えないし、仕事のやりがいにつながるとは思えない。しかしながら、がんと共に生きる患者と家族、そして、がん医療に携わる看護師の双方にとって「よい病院環境」というのは実現しないものなのだろうかと思いながら、帰国の途についた。

Ⅲ. National Oncologic Institute (Instituto Oncologico Nacional)

National Oncologic Institute の病院見学ツアーは、第18回国際がん看護学会（2014年9月7日～11日）の開催期間中に行われた。National Oncologic Institute は、パナマ共和国パナマ市にあるがん治療のための専門病院である⁶⁾。

National Oncologic Institute は、1936年に放射線療法を中心とした治療を行うために創立された。病院見学ツアーでは、放射線治療（写真6）、化学療法（写真7、8）

を行う部署と病棟を見学した。写真9は、抗がん剤をミキシングする際に使用する安全キャビネットである。国際がん研究機関（International Agency for Research on Cancer:IARC）⁷⁾は、発がん性のメカニズムの解明や評価などについて毎年データを更新しているが、発がん性がある薬剤を理解した上で曝露に留意しながら薬剤を取り扱うことが重要である。また、曝露予防対策のヒエラルキーを基に実施していくことも重要である。National Oncologic Institute でも、日本と同様にミキシングする場合は、曝露防止のためにディスポーザブルのゴーグルやエプロン、手袋などの個人防護具を着用し実施していると説明があった。抗がん剤の曝露対策については、国際的に同様の対策がとられているがわかった。

職業性曝露については、欧米では1970年代には注目されていた。日本では、2015年に「がん薬物療法における曝露対策合同ガイドライン」が発刊された。医療の現場をみると、病棟内に安全キャビネットが設置されたり、抗がん剤のミキシングは薬剤部での管理となったり、病院によって対応はさまざまだが、抗がん剤の曝露対策が進展してきている。抗がん剤等の薬剤の開発や治療方法の開発など、がん医療の進歩も必要であるが、がん医療に携わる医療者の健康問題に対する対策も国際的視野に立って進めていくことも重要であると思った。



写真3



写真5



写真4



写真6



写真7



写真9



写真8

まとめ

学会参加者を対象とした海外のがん医療の現場を見学する機会を得て、外来化学療法を行う部署の環境や看護ケアのあり方、抗がん剤の曝露対策の問題、がん医療に携わる看護師の福利厚生等職場環境の問題などを考える機会となった。

がん患者と家族にとって、がん研究の推進やがん医療の充実は重要である。同様に、日々進歩しつづけるがん医療に伴い、がん患者と家族の療養環境を整えていくこと、そして、看護ケアの質の向上を図るための人材育成は重要であり、これらについては、がん対策基本推進計画やがんプロフェッショナル養成推進プランなどが行われており、さまざまな対策がとられている。

がん患者と家族中心のがん医療・看護の充実を図るためには、がん医療に携わる看護専門職者としてのキャリア開発と一個人としての生活の充実を図るためのライフワークバランスの視点を入れた看護専門職者への支援も必要になってくるのではないかと考えた。

文 献

- 1) 河面育子, 山手美和: 第37回 ONS (米国がん看護学会) 年次総会報告, プロフェッショナルがんナースング, 2(5), 3-8, 2012.
- 2) <http://www.medstargeorgetown.org/> (2016年12月閲覧).
- 3) 大久保仁司, 山田 忍: 肺がん患者の療養を支援する看護師が経験する困難, ホスピスケアと在宅ケア, 22(1), 31-37, 2014.
- 4) 桑田 響, 森 明子: がん病院に勤務する看護師の SOC とストレスの関連について, 日本看護学会論文集: 看護管理, 40号, 314-317, 2010.
- 5) 石田和子, 近藤由香: 第16章看護師のストレスマネジメント, がん看護学 臨床に生かすがん看護の基礎と実践, 初版, 大西和子, 飯野京子, 426-433, スーヴェルヒロカワ, 2011.
- 6) <http://www.ion.gob.pa/> (2016年12月閲覧).
- 7) <https://www.iarc.fr/> (2016年12月閲覧).
- 8) 菅野かおり: 効果的な曝露予防対策, プロフェッショナルがんナースング, 6(1), 20-22, 2016.